

行政調査報告書

令和2年3月13日

小牧市議会議長 様

会派名 明正クラブ
代表者氏名 河内伸一

行政調査を行いましたので、その結果を報告します。

記

1 調査日

令和2年2月3日（月）、4日（火）

2 調査先及び調査項目

神奈川県大和市

図書館（大和市文化創造拠点シリウス）について
東京都北区

図書館（赤レンガ図書館）について

3 参加議員

河内伸一

船引嘉明

大上利幸

4 調査内容

別紙のとおり

神奈川県大和市

■ 調査項目

大和市立図書館（大和市文化創造拠点シリウス）について

・ 説明者

大和市役所文化スポーツ部図書・学び交流課 中丸信孝課長

大和市役所文化スポーツ部図書・学び交流課 図書係 中山智紀主査

大和市文化創造拠点シリウス 大和市立図書館 来嶋芙実館長

・ 調査日時

令和2年2月3日（月） 13時30分～15時40分

・ 大和市の概要

人口：237,977人（令和2年2月1日現在）

世帯数：108,827世帯

・ 調査目的

開館から3年3ヶ月で来館者数1,000万人（年間来館者数300万人）を達成し、大和市のシンボルになっている施設であり、これから開館する新小牧市立図書館が年間来館者数目標45万人を達成するための課題を調査し、サービスの充実を図る為。

・ 調査内容

【大和市からの説明】

大和市は平成21年に「健康都市やまと」を宣言するとともに、「健康」を市政運営の中心にして、「人」、「まち」、「社会」の健康を成熟させ、すべての市民が健康で幸せに暮らすことができるように「健康都市」を目指している。

その中の「社会の健康」として大和市立図書館計画から、大和市文化創造拠点シリウス内に大和市立図書館をオープンした。近隣に既存の図書館があったが、スペースの問題で蔵書数の増加が出来ないことから移転した。大和市文化創造拠点シリウスは、平成6年の相鉄線の地下化による土地利用計画において、当初の商業施設計画から芸術・文化ホール計画へ変更になり、最終的に図書館、芸術文化ホール、生

涯学習センター、屋内こども広場を中心とした文化創造施設としてオープンした。

シリウスは組合施工型市街地開発事業で95%が市の所有で、運営主体は指定管理者やまとみらいである。図書館に関しては、指定管理者やまとみらい内の株式会社図書館流通センターが担当であり、市から指定管理者へ「1～5Fまで丸ごと図書館」、「市民の居場所になる滞在型の図書館」をコンセプトに運営をお願いしている。

【大和市立図書館指定管理者からの説明】

館内の案内

1Fは3Fまでの吹き抜けで開放感があり、白い壁・木目の床・落ち着いた色の本棚が配置されたホテルのロビーのような内装が特徴で、エントランスを入った瞬間に驚きを感じる内装である。スターバックスコーヒーと、新刊・雑誌等の気軽に読める本を揃えている。1Fには他にホールやギャラリーがある。

2Fへは1Fからエスカレーターで上がり、市民交流ラウンジ（有料席）と社会問題に関する本を揃えている。その他は、市の様々な発行業務等が可能な大和市連絡所と、イベント観光協会が配置されている。

3Fはカラフルな本棚と、子供の年齢に応じたおすすめ本を紹介しているこども図書館である。その他はちびっこ広場（有料）・保育室・スタジオ等が配置されている。

4Fは健康都市図書館として、健康に関する図書、ティーンズ図書・漫画を揃えている。

その他は、骨密度測定器・脳年齢測定器等の健康見える化コーナー、健康に関する講座等のイベントスペース＝健康テラスを配置している。

5Fは調べものをサポートするフロアで、レファレンスサービスなどが利用出来る。その他、地域資料コーナー、点字図書室、対面朗読室等を配置している。

大和市立図書館の特徴

- ・ 開館日数 年間 3 6 3 日

休館日が12月31日と1月1日の2日のみで、「いつ行っても開いている図書館」の実施

- ・ デジタルサイネージ（電子看板）の設置

モニターに画像を映し出すことにより、ポスターの弱点である破損による見栄えの悪さ・印刷コスト・作業時間の改善をし、5秒ごとに画像を変えて多くの情報を発信している。

- ・ 各フロアへ自動貸出機の設置

10冊まで一度で読み込める自動貸出機の設置により、利便性の向上と同時に人員の削減が出来ている。

- ・ 飲み物の持ち込みが可能

滞在型図書館の実現のため、すべてのフロアへ飲み物の持ち込みが可能。

- ・ 飲食可能なフロア

こちらも滞在型図書館の実現のため、2Fの市民交流ラウンジでは飲食が可能。（6Fの生涯学習センターも可能）

- ・ 自動返却機の導入

返却口に本を乗せると自動で仕分けされるため、人員の削減が出来ると同時に、ガラス越しでその本の仕分けが見える演出が楽しめる。

- ・ セルフ予約本コーナー

予約本コーナーの入口でカードを読み取らせると、予約本の場所が表示され、スタッフの対応なしで借りられる。

- ・ 図書消毒機

本を消毒出来る機械。新型コロナウイルス対策にも有効。

【質疑応答】

Q 開館日数363日は素晴らしい取り組みだと思うが、なぜ可能なのか？

A 市の職員と委託業者の運営では難しかったと思うが、指定管理者へ依頼したことで実施出来ている。

Q 開館3年3ヶ月で1,000万人を達成され大成功だと思うが、課題があれば教えてください。

A 当初の予測を超える来館者で、閲覧席が足りなくなり、850席から950席に増席したが、それでも週末は足りない状況である。

市外の来館者が多く、市民が利用できない問題も起きている。

Q 来館者の市内と市外の割合を教えてください。

A 5割が市外からの来館者である。大和市駅は相鉄線と小田急線のターミナル駅で駅から近いことが要因と思われる。

Q 来館者数を維持するためには、何が重要だと思うか？

A ハード面では課題の席数を増やすことと、ソフト面では施設の清掃の徹底が重要。

【本市での展開の可能性】

新小牧図書館の来館者数年間45万人を達成するためには、開館日数と閲覧席数が重要だと感じた。

開館日数に関して、運営は委託契約であるが現状の予定では年末年始の6日前後の休館だと聞いているので、市の規模から判断すると妥当な開館日数だと思う。

閲覧席数に関しても、現状の計画では700～750席のため、十分だと思う。

大和市でも重要課題であった清掃の徹底は、職員と委託業者が協力して取り組んで頂く必要がある。

さらに、大和市立図書館で導入されていた特徴のある取り組み及び設備に関して、新小牧市立図書館でも検討出来れば、更なる魅力向上につながると感じた。





1Fの様子



セルフ予約本コーナー



健康テラス



自動返却機



図書消毒機



予約照合機

東京都北区

■ 調査項目

東京都北区立図書館（赤レンガ図書館）について

・ 説明者

東京都北区教育振興部 中央図書館 堀田哲二館長

東京都北区教育振興部 中央図書館管理係 能味次郎係長

・ 調査日時

令和2年2月4日（火） 10：00～11：30

・ 北区の概要

人口：353,938人（令和2年2月1日現在）

世帯数：198,462世帯

・ 調査目的

北区立中央図書館は、階数は1F少ないものの建坪面積が新小牧市立図書館と同規模であり、開館から約11年経過している課題を調査する為。さらに中央図書館は『区民とともに歩む図書館をめざして』図書館委員会の設置し、活動している取り組みが参考になると期待した為。

【調査内容】

・ 北区からの説明

北区には15か所の図書館があり、区内のほぼ全域が図書館まで徒歩1キロ圏内で図書館がとても充実した地域である。近隣には旧中央図書館があったが、弾丸製造工場として建てられた赤レンガ等を活用するかたちで新中央図書館計画が決まり、平成20年6月28日に開館した。運営は市と委託業者であり、開館日は年間318日、開館時間9：00～20：00（通常）、9：00～17：00（日曜・祝日）。

北区立図書館は、次のコンセプトで計画した。

区民とともに歩む図書館を目指して実現する3つのコンセプト

◆「利用者が主役」の図書館

目的に応じた明快な図書館。ワンフロアで全体が一目でわかる利用しやすい空間。長時間滞在への配慮や誰にもやさしい図書館。

◆「永く愛される」図書館

明るく親しみやすく、時間とともに風景になじむ建物。成長と変化に対応できる施設。

◆「区民が活動する」図書館

区民の図書館活動への参加を促す協働の拠点。

・館内の案内

1 F は、一般向け資料をワンフロアに集め、広くゆとりのある空間の中で利用できる。喫茶室、総合カウンター、自動貸出機、一般書架、雑誌コーナー、CD/DVDコーナー、パソコン席、YAスペース（中高生世代）、対面音訳室・サポート室、研究個室、北区の部屋、閲覧席、読書テラス等がレイアウトされている。

2 F は、赤ちゃんから小学生まで、保護者の方も一緒にゆったりとくつろいで読書ができる「こども図書館」である。児童図書、展示コーナー、おはなしのへや、子育て情報支援室、読書テラス等がレイアウトされている。

3 F は、区民と協働する図書館づくりの拠点の「協働のフロア」です。区民活動コーナー、ホール、閉架書庫、事務所等がレイアウトされている。

北区立図書館の特徴

・赤レンガ倉庫の活用

館内外で赤レンガや鉄骨ラチス・トラスの建築技術を知ることができる貴重な建造物。

・ユニバーサルデザインの採用

段差のないフロア、車イス等の方も利用しやすい高さの書架や机、トイレがある。

・ITの活用

世界初となるICタグを採用し、蔵書を短時間で毎日点検することができ、管理の効率化を図る。

- ・環境への配慮

太陽光パネル・屋上緑化・雨水利用の省エネルギー化などで環境への取り組みを行っている。

- ・北区の部屋

「北区のことなら何でもわかる」をコンセプトに、北区に関する情報を収集・保存・貸出・活用している。さらに地域資料専門員を配置し、「北区」についての様々な質問に答えている。

- ・ドナルド・キーン コレクションコーナー

北区名誉市民、アンバサダーであるドナルド・キーン氏からの寄贈資料を公開している。

- ・北区立図書館の刊行物

北区について区民に知ってもらうための刊行物。

『北区の歴史 はじめの一步』全7地区7刊

子供達や北区について初めて学ぶ方向けに、写真を多用したとてもわかりやすい刊行物。

『北区こぼれ話』2刊

北区に関する様々な雑学・豆知識を紹介している。

『T O K Y O 北区のK I T A みち～目で見える北区の歴史～』

北区全域を1冊で知ることができ、カラフルで見ているだけでも楽しい北区の歴史本。英語翻訳版も作成。

- ・区民との協働

『区民とともに歩む図書館委員会』

区民が図書館運営にかかわる委員会。

『北区図書館活動区民の会』

委員会の提言で発足した図書館活動のボランティア団体で「企画・広報室」、「子ども部」、「ユニバーサル部」、「地域資料部」、「ドナルド・キーン研究会」の5つの部会により構成され、各種講座、講演会、おはなし会など様々な活動を図書館と協働している。

- ・区内15図書館蔵書の一元管理

予約管理を中央図書館に集約し、午前中に仕分け、午後には各図書館へ配送するシステムを確立。

【質疑応答】

Q 休館日が多い理由は？

A 市と委託業者での運営のため、休館日が多い対応になっている。

Q 運営を指定管理者へ任せ、開館日数を増加させることは検討をしたか？

A 当初の計画から区民とともに歩む図書館をめざしていたので、検討していない。

Q 現状の課題は？

A 閲覧席数、開館日数が課題である。

閲覧席数は当初の450席から506席に増席しているが、不足している。開館日数は委託業者と協力して改善したい。

【本市での展開の可能性】

「ふるさと北区」に親しみと愛着を持ってもらいたいという方針のもとに、『北区の部屋』の設置、『北区に関する刊行物』の発刊等は、本市でも必要ではないかと感じた。

『区民とともに歩む図書館委員会』は、区民が図書館活動へ参加できる。さらに、委員会の提言により発足したボランティア団体『北区図書館活動区民の会』は、様々な活動で図書館と協働しており、本市でも必要ではないかと感じた。

